

知ッル346

- 415 -

先日、初めて松本市の松本深志高校に行きました。東京からやって来た芸人さんに教えたい伝説が、ここにはあるからです。高校野球が大好きで何でも知っているという彼を、驚かせる伝説が深志高校野球部には存在します。

それは、1906年(明治39年)の出来事です。まだ松本中学だった頃で、対戦相手は上田中学(現上田高校)。そこで日本野球史上において、初めて

伝説のスウィズ作戦



の「スウィズ」という作戦が行われ、成功させたという伝説です。スウィズとは、3塁にランナーがいて、次のバッターが意表を突くバントをして球が転がっている隙にホームベースに走り込んで点を取るというもの。当時の日本の野球にはその概念がなかったらしいのですが、文武両道の精神勇ましく、当時の選手たちはアメリカからルールブックを取り寄せて、英語の勉強がてらなんとみん

なで翻訳したそうで、その中にスウィズがあり、練習してやってみようということになったとか。今では甲子園大会はもろろん、プロ野球の試合でも多く見ることができるようですが、実に11年前にこの深志高校野球部の先輩たちが初めて、英語の勉強がてらに行った作戦が始まりましたのですね。対戦相手の投手は、初めてやられたので、あまりにびっくりして尻もちをついてしま

ったという記述が残っています。

今年は、甲子園大会100年という記念の年だそうです。松本市野球場のグラウンドに立つて、その伝説の話をしながら思いましたが、こんな広い土地とお金がかかる道具が必要な競技が、よくこの狭い日本の国民的スポーツになり得たなあと思議に感じていました。でも、深志高校のOBは教えてくださいます。「三四六さん、ルールの理解の難しさやチームワークの精神性など、野球には日本人気質をゾクゾクさせる要素が詰まっていたからだと思えますよ」って。納得!

〈三四六(さんしろろ)、タレント＝東京都出身〉